

【第1部】基礎（Q1～Q20）

- Q1. ▶ 答え：ア 書き下し「我は行かず」。訳「私は行かない」。「不（ず）」は動作の単純な打消。
- Q2. ▶ 答え：ア 「無（なし）」は存在の打消。訳「家に本がない」。
- Q3. ▶ 答え：イ 書き下し「人を欺く勿かれ」。「勿（なかれ）」は禁止。
- Q4. ▶ 答え：ア 書き下し「此れ道に非ず」。「非（あらず）」は名詞を打ち消す否定。訳「これは正道ではない」。
- Q5. ▶ 答え：イ 書き下し「学ばざるべからず」。否定が二つ重なり「学ばなければならない」。\*\*最頻出\*\*。
- Q6. ▶ 答え：ウ 書き下し「喜ばざるは無し」。二重否定＝強い肯定。
- Q7. ▶ 答え：ウ 書き下し「何ぞ学ばざる」。文末に「ん」がなく、疑問。訳「どうして学ばないのか」。
- Q8. ▶ 答え：ア 「豈（あに）…んや」は反語。書き下し「豈に君子ならんや」。訳「どうして君子であろうか、いや君子ではない」。
- Q9. ▶ 答え：エ 書き下し「何ぞ之を憂へんや」。文末「んや」に「ん」があり反語。訳「どうして心配しようか、いや心配しない」。
- Q10. ▶ 答え：イ 「不（ず）」は打消。訳「私は天命を知らない」。否定。
- Q11. ▶ 答え：エ 書き下し「安くんぞ能く之を為さんや」。「ん」があり反語。訳「どうしてこれをできようか、いやできない」。
- Q12. ▶ 答え：ウ 文末「乎（か）」は疑問。書き下し「子は楚人なるか」。
- Q13. ▶ 答え：ア 書き下し「国に賢臣無し」。「無（なし）」は存在の打消。訳「国に賢い臣下がない」。
- Q14. ▶ 答え：ア 「非不（ざるにあらず）」は二重否定。訳「知らないのではない（＝ちゃんと知っている）」。
- Q15. ▶ 答え：イ 「安（いづくんぞ）」は「どうして」。書き下し「安くんぞ之を知る」。文末に「ん」がなく疑問。
- Q16. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「んや」。書き下し「豈に之を得んや」。訳「どうしてこれを得られようか、いや得られない」。
- Q17. ▶ 答え：ウ 書き下し「王臣に非ざるは無し」。「無非」は二重否定。
- Q18. ▶ 答え：ア 「莫（なかれ）」は禁止。訳「言ってはいけない」。
- Q19. ▶ 答え：エ 書き下し「寧くんぞ死を畏れんや」。「ん」があり反語。訳「どうして死を恐れようか、いや恐れない」。
- Q20. ▶ 答え：イ 書き下し「驚かざるは無し」。二重否定＝強い肯定。
- Q21. ▶ 答え：ア 書き下し「彼遂に来たらず」。「不」は打消。否定。
- Q22. ▶ 答え：ウ 「不可不」は「ざるべからず」。二重否定で「慎まなければならない」。
- Q23. ▶ 答え：ア 「非（あらず）」は名詞の打消。書き下し「是れ汝が過ちに非ず」。
- Q24. ▶ 答え：ウ 書き下し「何ぞ学を好む」。文末に「ん」がなく疑問。訳「どうして学問を好むのか」。
- Q25. ▶ 答え：イ 「莫不（ざるはなし）」は二重否定。訳「感動しない者はいない」。
- Q26. ▶ 答え：ウ 文頭「豈」＋文末「んや」は反語。書き下し「豈に之を忘れんや」。
- Q27. ▶ 答え：ア 書き下し「君子に憂ひ無し」。「無（なし）」は存在の打消。訳「君子に憂いがない」。
- Q28. ▶ 答え：ア 「誰（たれか）」は疑問。書き下し「誰か能く之を解かん」。

- Q29. ▶ 答え：イ 「安くんぞ…んや」は反語。書き下し「安くんぞ其の志を奪はんや」。
- Q30. ▶ 答え：イ 書き下し「備へざるべからず」。二重否定で「備えなければならない」。
- Q31. ▶ 答え：ウ 文末「んや」は反語。訳「どうして天を怨もうか、いや怨まない」。
- Q32. ▶ 答え：ア 「無（なし）」は存在の打消。書き下し「天下に敵無し」。
- Q33. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「んや」。書き下し「豈に憂ひ無からんや」。訳「どうして憂いがなからうか、いや、ある」。
- Q34. ▶ 答え：イ 理由をたずねる「何（なんぞ）」。書き下し「何ぞ学ばざる」。訳「どうして学ばないのか」。
- Q35. ▶ 答え：ア 書き下し「一言も発せず」。「不」は打消。訳「一言も発しない」。否定。
- Q36. ▶ 答え：ウ 「非不（ざるにあらず）」は二重否定。書き下し「欲せざるに非ず」。
- Q37. ▶ 答え：ウ 書き下し「誰か之を疑ふ」。文末に「ん」がなく疑問。訳「だれがこれを疑うのか」。
- Q38. ▶ 答え：ア 文末「ん」があり反語。訳「だれが疑おうか、いやだれも疑わない」。Q37（疑ふ＝疑問）との違いは「ん」。
- Q39. ▶ 答え：イ 「無（なし）」は存在の打消。書き下し「一点の曇りも無し」。
- Q40. ▶ 答え：イ 書き下し「靡かざるは莫し」。二重否定で「なびかない者はいない＝みななびく」。
- Q41. ▶ 答え：ウ 下に動詞「求む」があり、対象をたずねる「何を」。書き下し「君は何をか求むる」。疑問。
- Q42. ▶ 答え：ア 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「信ぜざるべからず」。\*\*「～してはいけない」と誤訳しない\*\*。
- Q43. ▶ 答え：ア 書き下し「是れ吾が志に非ず」。「非」は名詞の打消。訳「これは私の志ではない」。
- Q44. ▶ 答え：イ 「安くんぞ…んや」は反語。訳「どうして天命を知ろうか、いや知らない」。
- Q45. ▶ 答え：ウ 「無非（にあらざるはなし）」は二重否定。書き下し「道に非ざるは無し」。
- Q46. ▶ 答え：ウ 書き下し「何ぞ其れ然る」。文末に「ん」がなく疑問。訳「どうしてそうなのか」。
- Q47. ▶ 答え：ア 文末の「乎」は「か・や」と読む疑問の字。書き下し「汝は之を信ずるか」。
- Q48. ▶ 答え：イ 「勿（なかれ）」は禁止。書き下し「過ちを恐るる勿かれ」。
- Q49. ▶ 答え：ア 書き下し「我れ再び過たず」。「不」は打消。訳「私は二度と過ちをおかさない」。否定。
- Q50. ▶ 答え：ウ 「不可不」は二重否定。訳「努めなければならない」。
- Q51. ▶ 答え：ウ 書き下し「何ぞ学ばざる」。文末に「ん」がなく疑問。訳「どうして学ばないのか」。
- Q52. ▶ 答え：エ 書き下し「何ぞ学ばざらんや」。文末「ん」があり反語。Q51との違いは「ん」と「乎（や）」。
- Q53. ▶ 答え：ア 書き下し「子は安くんぞ之を知る」。文末に「ん」がなく疑問。訳は理由をたずねる。
- Q54. ▶ 答え：エ 書き下し「子は安くんぞ之を知らんや」。「ん」があり反語。Q53との違いは「ん」。
- Q55. ▶ 答え：イ 「不（ず）」は打消。訳「私はこれを信じない」。否定。
- Q56. ▶ 答え：ウ 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「省みざるべからず」。
- Q57. ▶ 答え：イ 書き下し「仁に非ざるは無し」。「無…非」で二重否定。訳「仁でないものはない＝すべて仁だ」。
- Q58. ▶ 答え：ア 「豈（あに）…んや」は反語。書き下し「豈に然らんや」。訳「どうしてそうであろうか、いやそうではない」。
- Q59. ▶ 答え：イ 「莫不（ざるはなし）」は二重否定。書き下し「聞かざるは莫し」。

- Q60. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「んや」。書き下し「豈に労を惜しまんや」。訳「どうして労を惜しもうか、いや惜しまない」。
- Q61. ▶ 答え：ウ 「非（あらず）」は名詞の打消。訳「これは人の道ではない」。否定。
- Q62. ▶ 答え：ア 書き下し「何ぞ之を憂ふる」。文末に「ん」がなく疑問。「ん」があれば反語（ウの訳）。
- Q63. ▶ 答え：ア 書き下し「室に人無し」。「無（なし）」は存在の打消。訳「部屋に人がいない」。
- Q64. ▶ 答え：イ 再読ではなく反語の「寧（いづくんぞ）…んや」。書き下し「寧くんぞ富貴を羨まんや」。訳「どうして富貴をうらやもうか、いや、うらやまない」。
- Q65. ▶ 答え：ウ 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「救はざるべからず」。
- Q66. ▶ 答え：ウ 「是か非か」と文末に「か」を重ねる疑問。書き下し「天道は是か非か」。訳「天の道は正しいのか、間違っているのか」。
- Q67. ▶ 答え：ア 「非不（ざるにあらず）」は二重否定。訳「知らないのではない」。
- Q68. ▶ 答え：イ 文頭「豈」＋文末「んや」は反語。書き下し「豈に徒らに老いんや」。
- Q69. ▶ 答え：ウ 「何の故ぞ」は理由をたずねる疑問。訳「これはどういうわけか」。
- Q70. ▶ 答え：ウ 「不可不」は「ざるべからず」。二重否定で「顧みなければならない」。
- Q71. ▶ 答え：ア 「敢へて…ず」は「決して…ない」。書き下し「我れ敢へて辞せず」。否定。
- Q72. ▶ 答え：エ 書き下し「安くんぞ虎子を得んや」。「ん」があり反語。訳「どうして虎の子を得られようか、いや得られない」。
- Q73. ▶ 答え：イ 文末「んや」は反語。訳「どうしてこれを知ろうか、いや知らない」。
- Q74. ▶ 答え：ウ 「無不（ざるはなし）」は二重否定。書き下し「至らざるは無し」。
- Q75. ▶ 答え：ウ 書き下し「何を以て之を知る」。文末に「ん」がなく疑問。訳「どうやってこれを知るのか」。
- Q76. ▶ 答え：ア ここの「無」は存在の打消で「なし」。書き下し「改むるに憚ること無し」。
- Q77. ▶ 答え：イ 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「察せざるべからず」。
- Q78. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「んや」。書き下し「豈に虚しからんや」。訳「どうして偽りであろうか、いや偽りではない」。
- Q79. ▶ 答え：ウ 「無（なし）」は存在の打消。訳「天下に道（正しい政治）がない」。否定。
- Q80. ▶ 答え：ア 「莫不（ざるはなし）」は二重否定。書き下し「服せざるは莫し」。
- Q81. ▶ 答え：イ 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「学ばざるべからず」。\*\*最頻出\*\*。「学んではいけない」と誤訳しないこと。
- Q82. ▶ 答え：エ 「寧くんぞ…んや」は反語。書き下し「王侯将相、寧くんぞ種有らんや」。訳「王侯将相に、どうして血筋があろうか、いや、ない」。
- Q83. ▶ 答え：ウ 「焉（いづくんぞ）」は「安」と同じく「どうして」。書き下し「焉くんぞ死を知らん」。文末に「ん」があるので反語（どうして死を知ろうか、いや知らない。『論語』「未だ生を知らず、焉くんぞ死を知らん」）。
- Q84. ▶ 答え：ア 文頭「豈」＋文末「んや」は反語。書き下し「豈に人の力ならんや」。
- Q85. ▶ 答え：ア 「不（ず）」は打消。書き下し「之を知る者は言はず」。訳「本当に分かっている者は軽々しく言わない」。
- Q86. ▶ 答え：イ 「安くんぞ…んや」は反語。書き下し「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや」。

- Q87. ▶ 答え：ウ 「勿（なかれ）」は禁止。書き下し「人に施す勿かれ」。論語「己の欲せざる所、人に施す勿かれ」の後半。
- Q88. ▶ 答え：ウ 書き下し「何ぞ其れ然る」。文末に「ん」がなく疑問。訳「どうしてそうなのか」。
- Q89. ▶ 答え：ア 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「用みざるべからず」。
- Q90. ▶ 答え：イ 理由をたずね、文末「んや」と呼応するここの「何」は「なんぞ」。反語「どうして…か、いや…ない」。
- Q91. ▶ 答え：ア 「非（あらず）」は名詞の打消。書き下し「是れ我が任に非ず」。訳「これは私の任務ではない」。
- Q92. ▶ 答え：ウ 「無不（ざるはなし）」は二重否定。訳「行き届かないことはない＝すべてに及ぶ」。
- Q93. ▶ 答え：ア 文頭「豈」＋文末「んや」は反語。書き下し「豈に之を信ぜんや」。
- Q94. ▶ 答え：ア 書き下し「終に悔いず」。「不」は打消。訳「最後まで後悔しない」。否定。
- Q95. ▶ 答え：イ 「盍（なんぞ）…ざる」。書き下し「盍ぞ帰らざる」。「どうして帰らないのか」。「盍」は「何不」をまとめた字。
- Q96. ▶ 答え：ウ 「莫不（ざるはなし）」は二重否定。書き下し「称せざるは莫し」。
- Q97. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「んや」。書き下し「豈に命を惜しまんや」。訳「どうして命を惜しもうか、いや惜しまない」。
- Q98. ▶ 答え：ア 「誰（たれ）…ぞ」は疑問。訳「これはだれの罪なのか」。
- Q99. ▶ 答え：イ 「不可不」は二重否定で義務。書き下し「報いざるべからず」。
- Q100. ▶ 答え：エ 文頭「豈」＋文末「べけんや（べし＋ん＋や）」。書き下し「豈に学を廃すべけんや」。訳「どうして学をやめてよかろうか、いやいけない」。